

香川県産のコウモリ数種について

森 井 隆 三

香川県立香川高等学校

昭和 41 年 12 月 25 日受領

On Some Species of Bats, Vespertilionidae, Found in Kagawa Prefecture
Ryuzo MORII

(Kagawa High School Takamatsu)

During several seasons from March, 1963 to December, 1966, the writer has studied bats in Yashima Cave, Megi Cave, Teshima Cave and Kankakei Cave in Kagawa Prefecture. Five species of bats were discriminated, each of them being observed at a certain period of seasons. From May to June, the colony consisted almost of females of *Miniopterus schreibersi fuliginosus* (Hodogson). During that period it seems that they breed in the caves. In July, the colony consisting mostly of males, females and babies were very rare. It seems probable that the females moved to the other caves for the rearing their babies. In the species, *Mi. schreibersi fuliginosus*, it seems that their hibernating seasons are from November to March.

はじめに

香川県産のコウモリについては石川⁽¹⁾、小野・植松⁽²⁾、岡田⁽³⁾が2~3の種について報告している。筆者は最近4ヶ年間石材採掘によって出来た屋島洞窟、女木洞窟、豊島洞窟、神懸洞窟のコウモリについて調査したのでその結果を報告する。

調査方法

月に1回、必要な時には2~3回の割合で洞窟に出かけて、生棲しているコウモリの種、数の推定を行った。アトランダムに採集した個体については性別などを調べた(主として屋島洞窟について)。

活動時期の捕獲はむつかしく、コウモリがcolnyを形成している所(常に一定している)をみつけて、投石または人声による刺激によって一斉に飛びたつ所を2~3人で網をふりまわして捕獲した。非活動時期にはそういう必要はなく素手で捕えられた。

結果及び考察

これまでに採集された各洞窟でのコウモリの種は以下の通りである。

屋島洞窟

Miniopterus schreibersi fuliginosus
HODOGSON

ニホンユビナガコウモリ

Myotis macrodactylus TEMMINCK

モモジロコウモリ

Rhinolophus ferrumequinum nippon
TEMMINCK⁽¹⁾ (2)

ニホンキクガシラコウモリ

R. cornutus cornutus TEMMINCK⁽¹⁾ (2)

ニホンコキクガシラコウモリ

女木洞窟

R. ferrumequinum nippon TEMMINCK⁽¹⁾

R. cornutus cornutus TEMMINCK

(1963年3月1個体採集 以後みあたらない)

豊島洞窟

Mi. schreibersi fuliginosus HODOGSON

R. ferrumequinum nippon TEMMINCK⁽¹⁾

家 屋

R. cornutus cornutus TEMMINCK⁽¹⁾

Pipistrellus abrams TEMMINCK

神懸洞窟

アブラコウモリ (イエコウモリ)

Mi. schreibersi fuliginosus HODOGSON⁽³⁾

コウモリの年間の生活態を屋島洞窟の例をとって

R. ferrumequinum nippon TEMMINCK

捕獲例からみた場合が表1に示されている。

R. cornutus cornutus TEMMINCK

表1 捕獲例からみた年間の生活態—屋島洞窟 (1965~1966)

月	種 名	推定数	捕獲数	註
Apr	<i>Mi. schreibersi fuliginosus</i>	□	9	♀ 8 胎仔がいた ♂ 1 子宮の長径 5mm
May	"	◎	27	♀ 16 胎仔のいたもの11/16 ♂ 11 子宮の長径25mm
Jun 5	"	◎	25	♀ 17 仔1, 3g ♂ 7
8	"	◎	33	♀ 22 仔9 ♂ 2
	<i>My. macrodactylus</i>	◎	39	♀ 38 ♂ 1
Jul	<i>Mi. schreibersi fuliginosus</i>	○	12	♀ 1 ♂ 11
Aug	"	○	2	♀ 1 ♂ 1
Sep	"	○	3	飼育
	<i>R. cornutus cornutus</i>	△	1	飼育
Oct	<i>Mi. schreibersi fuliginosus</i>	○	36	ラッカーをつけて逃がす
	<i>R. cornutus cornutus</i>	△		
Nov	<i>Mi. schreibersi fuliginosus</i>	◎	47	ラッカーは落ちかけていた 逃がす
	<i>My. macrodactylus</i>	△	1	♀
	<i>R. ferrumequinum nippon</i>	△		
	<i>R. cornutus cornutus</i>	△		
Dec	<i>R. ferrumequinum nippon</i>	△	4	仮眠状態
	<i>R. cornutus cornutus</i>	△	1	
Jan		×		
Feb	<i>R. ferrumequinum nippon</i>	△	1	
Mar	<i>Mi. schreibersi fuliginosus</i>	△	4	♀ 1 充分にはたらきうる ♂ 3 精子がいた
	<i>R. ferrumequinum nippon</i>	△	6	♀ 4 ♂ 2

◎: 非常に多い ○: 100~50 □: 10前後 △: 1~5 ×: 0

表1からみて種によって活動時期が異なるのでは ならないかと思われる。それを表にしてみると表2のよ

表2 各種の活動時期

species	month											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
<i>Mi. schreibersi fuliginosus</i>						—————						
<i>R. ferrumequinum nippon</i>		—————										—————
<i>R. cornutus cornutus</i>									—————			
<i>My. macrodactylus</i>					—————							—

表1によれば, *Miniopterus schreibersi fuliginosus* においては, 出産時期の6月には♂の個体が非常に多く, ♀の個体数は少なくなっている。出産が終った7月には出産時期とは逆に♂の個体数が多く, ♀の個体は少ない。また, この時期には仔の捕獲もできないことから♀と仔は別の場所に移ったものと考えられる。

Rhinolophus ferrumequinum nippon, *Rhinolophus cornutus cornutus* においては *Miniopterus schreibersi fuliginosus* のように大きな colony は形成しないで, せいぜい数個体が集まっている程度で, 単独で天井のすみに仮眠状態にあるのが多くみられる。

12月から3月にかけては, いつもの場所に *Miniopterus schreibersi fuliginosus* は全然みあたらない。どこに移動するのか今もって謎である。

今までに(1)(2)(3)によって報告されている種は, 筆者の調査したのより少ないが, これは表1から考えてもわかるように採集の時期, 回数に原因があるように思う。時間が許す限り調査の回数を重ねれば, さらにコウモリについての秘められた謎が解けるのではないかと思う。

要 約

- 1 香川県のコウモリを調査して5種が認められた
- 2 種によって, 活動時期が異なっているようであ

る(すみわけ)。表2参照

- 3 出産時期は5月下旬から6月上旬にかけてである。

- 4 *Miniopterus schreibersi fuliginosus* においては出産時期の集団は♀の個体が多く, ♂の個体は少ない。出産時期が終った7月には♂の個体が多くなり, ♀の個体と仔はほとんどみあたらなくなるが, 全然♀の個体がいけないわけではない。表1参照

- 5 *Miniopterus schreibersi fuliginosus* においては11月下旬から3月までの間冬眠している。その間 *Rhinolophus ferrumequinum nippon*, *Rhinolophus cornutus cornutus* においては仮眠状態にある。

最後に調査に協力いただいた, 香川高等学校生物部の諸君に深謝する。

文 献

- (1) 石川重治郎(1954) 四国の洞窟と動物相(その2) 高知女子大紀要 3:34-35
- (2) 小野嘉明・植松辰美(1962) 屋島洞窟の動物について 観光学術読本屋島 45-48
- (3) 岡田康稔(1955) 小豆島の哺乳類 小豆島の自然14-15
- (4) 森井隆三(1966) 屋島洞窟のコウモリの研究 香川高等学校生物部